

日立市立学校再編計画を改定する検討方針（案）について

I 日立市立学校再編計画について

1 基本的な考え方

- (1) 学校の規模が小さくなると、人間関係の広がり、学習形態の多様さ、課外活動の種類などが制限され、本来、それらを通して得られる社会性や人格形成に必要な成長の機会を狭めてしまうことが懸念される。
- (2) 児童生徒の習熟度に応じたきめ細やかな学習指導や生活上の指導、教員の相互研修、児童生徒と向き合う時間の確保など、一定の学校規模を確保することで、教員の配置が充実し、多様な指導体制や学校運営体制を整えることが可能になる。

2 統合の進め方

統合の対象となる学校の関係者（教員、保護者、地域の代表）で組織する「統合準備委員会」を設置し、学校名や校歌などの統合に必要な事項について協議を行う。

3 これまでの統合実績

年度	内容
令和4年度	中里小学校と中里中学校を統合し、中里小中学校が開校（県北初の義務教育学校）
令和6年度	東小沢小学校と坂本小学校を統合し、坂本東小学校が開校
令和7年度	①平沢中学校と駒王中学校を統合し、駒王中学校が開校 ※ 校名・校歌・校章・制服は駒王中のものとし、将来、助川中と統合する際に校名等を検討することとした。 ②坂本中学校と久慈中学校を統合し、松風中学校が開校
令和8年度	山部小学校と櫛形小学校を統合し、十王小学校が開校予定

※ 令和9年4月の統合を目標として、本年5月に仲町小学校・中小路小学校・宮田小学校統合準備委員会を設置

II 日立市立学校再編計画の改定について

1 計画改定の経緯

- (1) 本市の学校再編は、20年先を見据えて進めることとしており、令和3年から令和12年までの10年間に取り組む具体的な内容を明らかにするため、日立市立学校再編計画（第1次計画）を策定している。
- (2) 本計画は、令和3年の策定当初から、児童生徒数の推移などを踏まえて3年程度を目安に再編の進捗を検証し、計画の見直しを行うこととしているため、本年5月に学校再編計画改定検討委員会を設置し、協議を進めている。
- (3) 今回の計画改定の対象となる学校は、小学校が河原子小・大沼小・水木小の3校、中学校が河原子中・泉丘中の2校である。

- (4) 令和13年から令和22年までの10年間に取り組む具体的な内容については、第2次計画を策定する際（令和11年以降）に検討を行う予定である。

2 計画改定の進め方

本計画策定時（令和3年）の児童生徒数の推計と最新の推計の比較・検討を行い、今後の学校再編の在り方について考え方を整理した上で、令和7年度内の改定を目指す。

3 主な検討事項

(1) 児童生徒数の推移に基づく計画の見直し

本市では、BRT沿線区域等で宅地創出促進事業を実施し、宅地の造成を推進していることから、当該事業の影響（計画策定時の推計値に比べて児童生徒数の減少幅が小さい）を踏まえ、計画の見直しを検討する。

(2) 小中学校の連携強化に向けた計画の見直し

小学校の学区を分割する統合について、小中連携教育の観点からも、計画の見直しを検討する。

※ 小学校の卒業生が、全員同じ中学校に進学できるように計画を見直す。

4 計画の見直し（小学校）

(1) 現在の計画

大沼小学校の学区を南北に分割し、北部を河原子小学校に、南部を水木小学校にそれぞれ統合し、大沼小学校の跡地に中学校を新設する。（【別紙1】参照）

(2) 課題

ア 児童数推計値との差

大沼小の児童数（489人＜R7.5.1現在＞）は、計画策定時の令和7年推計値（403人）と比べて、86人多い状況となっている。

※ 児童数増加の要因 … BRT沿線区域に宅地造成の助成を実施している成果など

イ 保護者・住民からの要望

大沼学区の保護者や住民から、児童数の多い大沼学区を分割する統合の見直しを求める声が多い。

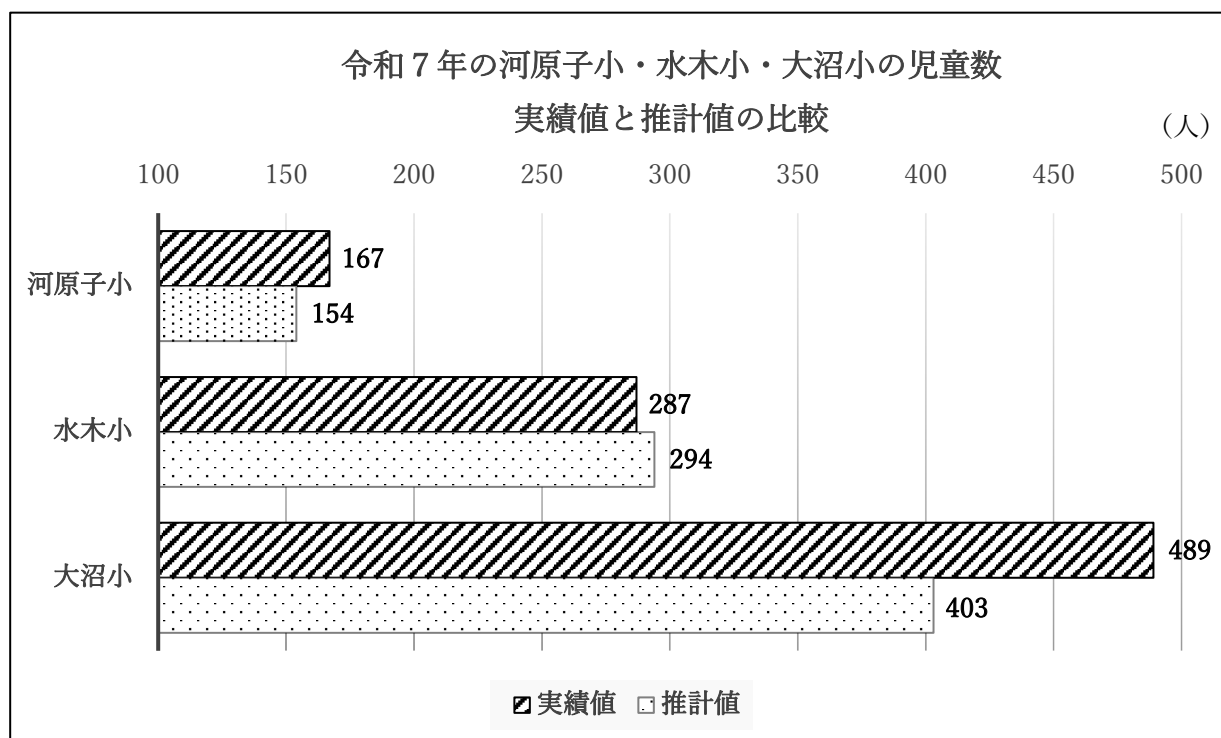
ウ 小学校区を分割する統合

大沼小の学区を分割した場合、河原子中と泉丘中に分かれて進学することから、小中学校間の連携や友人関係への影響を懸念する声がある。

※ 現計画では、大沼小と田尻小のみが小学校区を分割する統合である。

(3) 令和7年の河原子小・水木小・大沼小の児童数

ア 実績値（R7.5.1 現在）と推計値（計画策定時）の比較



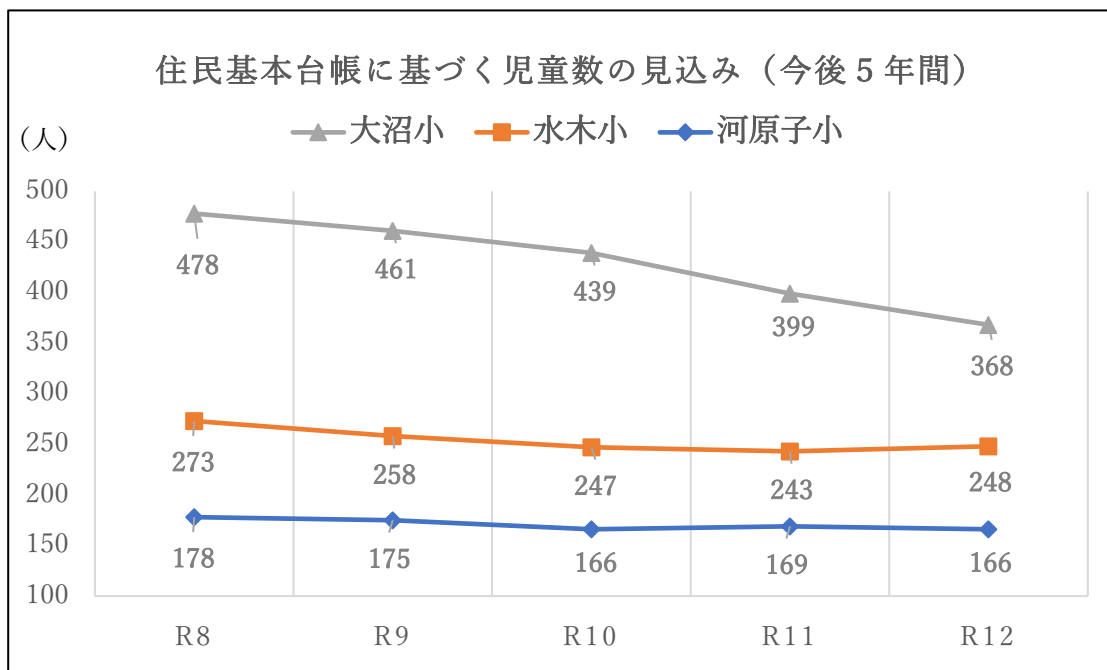
(単位：人)

学校名	実績値（R7.5.1 現在）							推計値 (計画策定時)	
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計 (a)	合計 (b)	(a－b)
河原子小	21	27	31	25	33	30	167	154	13
水木小	50	36	45	48	58	50	287	294	△7
大沼小	70	76	87	91	85	80	489	403	86

※ 実績値は学校基本調査（R7.5.1 現在）の数値で、特別支援学級在籍児童を含む

※ 推計値は、平成30年3月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した市町村別の人口推計値を基に計画策定時（令和2年度）に算出

イ 住民基本台帳に基づく児童数の見込み（今後5年間）



（単位：人）

学校名	年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
河原子小	R 8	41	21	27	31	25	33	178
	R 9	30	41	21	27	31	25	175
	R 10	16	30	41	21	27	31	166
	R 11	34	16	30	41	21	27	169
	R 12	24	34	16	30	41	21	166
水木小	R 8	36	50	36	45	48	58	273
	R 9	43	36	50	36	45	48	258
	R 10	37	43	36	50	36	45	247
	R 11	41	37	43	36	50	36	243
	R 12	41	41	37	43	36	50	248
大沼小	R 8	69	70	76	87	91	85	478
	R 9	68	69	70	76	87	91	461
	R 10	69	68	69	70	76	87	439
	R 11	47	69	68	69	70	76	399
	R 12	45	47	69	68	69	70	368

※ 令和7年5月1日現在の人口を基に作成

(4) 検討方針（案）

ア 大沼小学校は分割統合せずに、当面、河原子小・水木小・大沼小は現在地で存続することとする。

イ 小中学校の円滑な接続を推進する小中連携の観点から、小学校区を分割する統合は原則行わないこととする。

5 計画の見直し（中学校）

(1) 現在の計画

大沼小学校跡地に、河原子中学校と泉丘中学校を統合した中学校を新設する。
 (【別紙2】参照)

(2) 課題

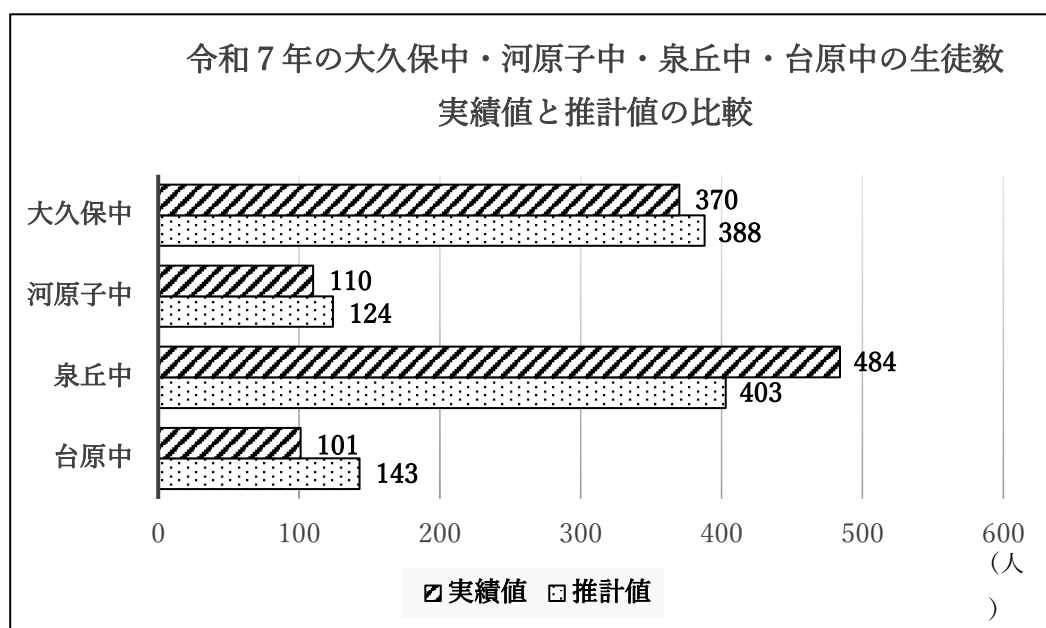
ア 大沼小学校を現在地で存続する場合、大沼小学校の敷地への中学校の新設はできなくなる。

イ 小規模の中学校では、部活動の選択肢が狭まるとともに専門教科の教員の確保が難しくなっていることを踏まえ、教育環境を維持する観点から統合を進めていく必要がある。

ウ 河原子中学校は、令和元年度から校舎の一部をプレハブ校舎として長期間使用してる。

(3) 令和7年の大久保中・河原子中・泉丘中・台原中の生徒数

ア 実績値（R7.5.1現在）と推計値（計画策定時）の比較



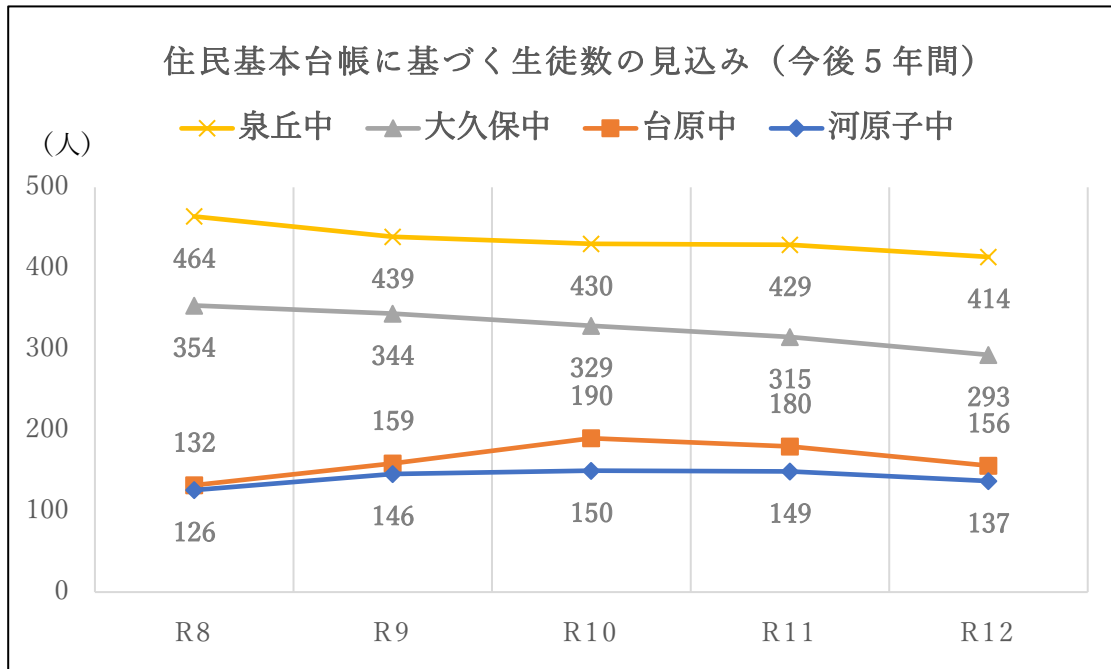
(単位：人)

学校名	実績値（令和7年5月1日）				推計値（計画策定時）	
	1年	2年	3年	合計(a)	合計(b)	(a-b)
大久保中	114	120	136	370	388	△18
河原子中	39	32	39	110	124	△14
泉丘中	158	168	158	484	403	81
台原中	29	35	37	101	143	△42

※ 実績値は、学校基本調査の数値で、特別支援学級在籍児童を含む

※ 推計値は、平成30年3月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した市町村別の人口推計値を基に計画策定時（令和2年度）に算出

イ 住民基本台帳に基づく生徒数の見込み（今後５年間）



（単位：人）

学校名	年度	1年	2年	3年	合計
大久保中	R 8	120	114	120	354
	R 9	110	120	114	344
	R 10	99	110	120	329
	R 11	106	99	110	315
	R 12	88	106	99	293
河原子中	R 8	55	39	32	126
	R 9	52	55	39	146
	R 10	43	52	55	150
	R 11	54	43	52	149
	R 12	40	54	43	137
泉丘中	R 8	137	158	169	464
	R 9	144	137	158	439
	R 10	149	144	137	430
	R 11	136	149	144	429
	R 12	129	136	149	414
台原中	R 8	68	29	35	132
	R 9	62	68	29	159
	R 10	60	62	68	190
	R 11	58	60	62	180
	R 12	38	58	60	156

※ 令和７年５月１日現在の人口を基に作成

(4) 検討方針（案）

ア 中学校として適切な規模を維持するため、河原子中学校は、比較的距離の近い大久保中学校に統合することとする。

＜大久保中学校の特色＞

- ①生徒数が多いことで、様々な考えを持つ仲間と出会い、互いに学び合いながら、多くの仲間と協力し様々な経験を積むことができる。
- ②校舎が比較的新しい。（平成２３年 新校舎完成）
- ③部活動の種類が多いため、生徒一人ひとりが自身の興味や得意分野に応じた部活動を選ぶことができる。（合計１５部）

陸上、男子バスケットボール、女子バスケットボール、女子バレーボール、男子ソフトテニス、女子ソフトテニス、男子卓球、女子卓球、男子柔道、女子柔道、サッカー、軟式野球、吹奏楽、パソコン、美術

イ 泉丘中学校は、現在地で存続することとする。

※ 台原中学校の統合については、後期計画で大沼小跡地に新設する中学校との統合を検討することとなっている。生徒数の推移を踏まえ、泉丘中学校との統合を検討する。

以 上